

聖書使徒の働き7:51~60

「ステパノの殉教」

1. はじめに

- ・文脈の流れの説明①どういうことで捕まったか。

- ②最高法院でのステパノのメッセージの内容。

- ・宣教とはイエスキリストを示すこと。

- ・とりなしの祈り。そして死。

* ステパノとピリポの宣教の場面は違う。ステパノはサンヘドリンで、ピリポはエチオピアの宦官にであつた。ステパノ、ピリポの働きも違う。主の導きは一樣ではない。しかしイエスを指し示すことは同じである。宣教はイエスを指し示すことであつた。

2. 本文

- ・51～53節：ステパノのメッセージ。最高法院の人々は侮辱されたと思った。本質を見なかった。

- ・ユダヤ民族の歴史。預言者の言葉。

- * ステパノのメッセージは私たちの父アブラハムがメソポタミアから今のイスラエルに来た経緯を語

った。その途中エジプトでのモーセの働きと、彼に与えられた神のことばです。「神は、あなたがたの

同胞の中から、私のような一人の預言者をあなたがたのために起こされる。」そしてソロモンの時に

神殿が建てられた。預言者は言う。「いと高き方は、手で造った家にはお住みになりません。」

- * ステパノは悔い改めのため、51～53節の鋭い言葉を投げかけます。これは聖なる神に立ち返るために方向を示した言葉です。

- ・54～60節：外に出し、石を投げつけた。
- ・54節：人々のはらわたが煮えかえった。
- ・58節：証人たちは、自分たちの上着をサウロという青年の足もとに置いた。
- ・59, 60節「主イエスよ、私の霊をお受けください。」「主よ、この罪を彼らに負わせないでください。」

・石打の刑についての説明。

* 申命記によれば(申命記17:7)共同体が科した刑罰であり、告発者と有罪を証明する証人が最初に石を投げ、それからすべての人が石を投げた。口伝律法では具体的に方法を語り、野蛮ではないことをのべている。それによれば受刑者を人の二人分の高さの切りだった高さの場所に連れていき、告発者の一人が背後から石を投げる。それは打って気絶させ、あるいは腎臓の破壊を狙った。そのあと石が投げられたが、最初の石は心臓を狙わねばならなかった。つまりリンチのようではなく、マニュアルにそって、または儀式にそって苦痛を最小限にして行われるということです。ステパノは最終的に「とりなし」をして息を引き取った。信仰とはなにか。

3. まとめ

- ・宣教とはなにか。

- ・イエスを伝えること、他ではなくイエスを伝えること。

- * ペテロもステパノもイエスを証しました。他ではなくイエスを証したのです。内容は、霊的なこと、生活態度のこと、生き方のこと、人間関係のことにおいて方向転換をするように招きました。具体的には、悔い改めて、イエスの共同体に参加するようという呼びかけでした。